



JASDAQ

平成 24 年 9 月 10 日

各 位

京都市上京区東堀川通り一条上ル堅富田町 436 番地の 2
株式会社エスケーエレクトロニクス
代表取締役社長 石田昌徳
(コード番号：6677)

問い合わせ先 常務取締役 藤原英博
経営戦略室担当
電話番号 075 (441) 2333 (代表)

『平成 24 年度 戦略的基盤技術高度化支援（サポイン）事業への申請結果』のお知らせ

株式会社エスケーエレクトロニクスはこのたび提案しておりました『有版印刷装置のための超微細樹脂版の革新的製造技術の開発』が、経済産業省の主管する平成 24 年度戦略的基盤技術高度化支援事業に採択されたことを報告いたします。

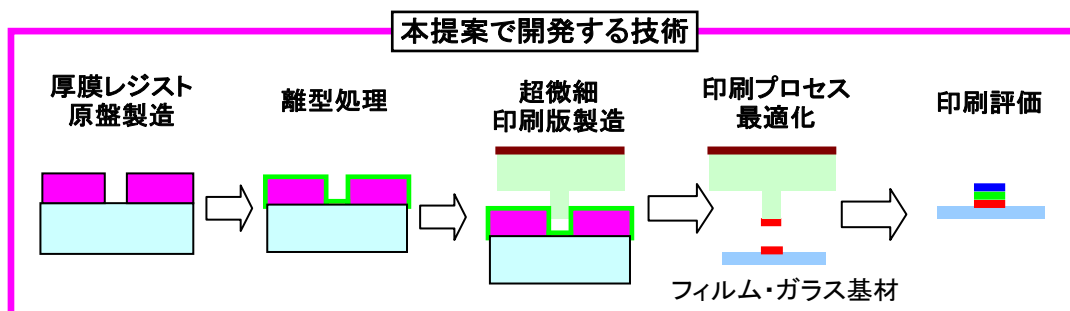
現在、有機トランジスタなどのデバイスは、その製造法において主に真空やフォトリソグラフィ技術を用いた製造プロセスが採用されています。これらのプロセスは工程が多く、また環境負荷が大きく、高コストであるといわれています。このため環境負荷の低減、コストの大幅な削減が可能な印刷法による製造プロセスの確立が求められ、低コストプロセスによる量産化が期待されています。

世界一大きな液晶ディスプレイ用大型フォトマスク製造技術を保有している当社は、5 年前からフォトマスク製造で培った大面積・高精細・高密度・高い重ね合わせ精度技術を基盤とし、印刷版に要求される仕様に適した微細な 3 次元凹凸構造・多段化などの形状を厚膜レジストパターンニング技術で確立し、印刷用原盤の製作技術の開発を進めてまいりました。

この技術の有力な用途の一つとして、有機 EL デバイス（有機 EL 照明、ディスプレイ）の有版印刷用の版があり、本提案では平成 26 年度を目処に印刷に用いられる超微細樹脂版の製造技術の確立を目指し産学含む複数の関連機関と共同開発を進めてまいります。

本研究の成果は有機 EL デバイスだけにとどまらず、太陽電池、電子ペーパー、センサー等の製造プロセスにも上記に期待されているメリットを横展開することが出来ます。加えて、印刷法による低温プロセスの確立により、既存技術では困難である樹脂基板を用いたフレキシブルデバイスを作ることができ、従来の用途の他にも幅広い用途への展開が可能となります。

また、印刷技術であるためにフレキシブルで柔軟性の高い生産体制を構築することができ、大量多品種かつ大面積のデバイス製造が可能となり、その波及効果は大いに期待できます。この研究成果により「紙の電子化」を実現させ、生活に身近なエレクトロニクスデバイスの製造に活用されることで、より豊かな低炭素社会の実現に寄与できるよう技術開発をおこなってまいります。



以上

ご参考

経済産業省 近畿経済産業局 『平成 24 年度戦略的基盤技術高度化支援事業』採択結果について
<http://www.kansai.meti.go.jp/3-5sangyo/sapoin/h24/saitaku24.htm>

※戦略的基盤技術高度化支援事業

製造業の国際競争力の強化と新たな事業の創出を目指し、中小企業のものづくり基盤技術（鋳造、鍛造、切削加工、めっき等）の高度化に資する研究開発から試作段階までの取組を促進することを目的としており、特に複数のものづくり中小企業者と最終製品製造業者や研究機関（大学、公設試験等）が協力した研究開発であって、この事業の成果を利用した製品の売上見込みや事業化スケジュールが明確に示されている提案を支援する事業。